



はる あめ ひ よる みず どて うご ちい ひかり
春の雨の日の夜、水ぎわの土手で動いていた小さい光はホタルなの

ホタルの幼虫の上陸

なつ なが なが かわ かわ あらわ
夏、流れのある川の川べりで現れるホタルは、たいていゲンジボタルです。

ゲンジボタルは、水ぎわのコケに卵を産みつけます。卵は1か月ぐらいでかえり、幼虫はすぐ川に入って、カワニナという貝をえさにして、大きくなります。川の中で、およそ10か月をすごした幼虫は、春の雨の日の夜、いっせいに川岸に上陸を始めます。

ホタルは、成虫だけではなく、卵も幼虫も、光ります。真っ暗な雨の夜、発光器のあるしっぽの先をふりながら、幼虫がいっせいに上陸するありさまは、不気味に見えたことでしょう。上陸した幼虫は、土の中にもぐり、小部屋を作って、その中で、さなぎになります。さなぎも、おの先に発光器があり、つついたりすると光ります。およそ50日後、さなぎから成虫になって土の中から出てきて、飛び回ります。

ホタルの光は、メスへの合図

ゲンジボタルの飛び回る時間は決まっています、日がしずんだ後の1時間くらいが、いちばんさかんです。このとき飛んでいるのはオスが多く、メスはその後で、飛び回るようです。成虫になったホタルは水しか飲まず、数日で死んでしまいます。その数日の間に、オスは、メスを見つけ、卵を産んでもらわなければなりません。夜、ピカッ、ピカッと光が強くなったり弱くなったりしながら飛ぶホタルの光は、メスへの合図なのです。

同じゲンジボタルでも、西日本と東日本では、光り方がちがうことが知られています。ヘイケボタルの光り方もちがっていますので、仲間をまちがえることはありません。

(監修・中山 周平)

